

清和源氏土岐氏随一の支流 明智光秀ゆかりの揖斐川町

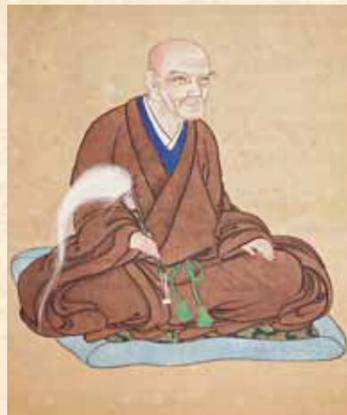
室町幕府美濃国初代守護土岐頼貞の次男頼清は若くして戦病死し、揖斐川町の瑞巖寺に葬られた。頼清長男の頼康は美濃・尾張・伊勢の三国守護を兼ね、室町幕府足利將軍の重臣として歴代守護最高の権力を誇った。後光厳天皇を迎えるために揖斐川町小島に頼宮を築くなど大きな足跡を残した。頼康の弟頼雄は揖斐城主として土岐氏の支流揖斐氏の元祖となった。以後、



土岐頼清(瑞巖寺所蔵)

土岐揖斐氏は代々子孫が揖斐の地を治め、約二百年にわたって土岐氏の支配体制を支えた。こうして揖斐川町は、清和天皇を始祖とする土岐氏の嫡流・支流が共に活躍する舞台となったのである。

一方、明智光秀は土岐明智氏の流れを汲む武将である。揖斐川町小島城で誕生した頼康の弟頼兼が、分家して可児郡明智荘を拝領し、明智氏元祖となった。明智光綱の代に嗣子がなく、光綱妹市と大垣市上石津多良の住人、山岸信周の四男を養子に迎え、元服したのが十兵衛光秀である。山岸氏は越前国江沼郡山岸村の豪族で、五代光範の代に



土岐頼康(瑞巖寺所蔵)

本巣市根尾長嶺城から揖斐川町谷汲の府内城に移り、居宅を揖斐川町桂に置いた。これらの史実が揖斐川町と明智光秀との深い関わりを証明している。

また、白樫城主斎藤利三は、明智光秀と縁戚関係にあたり、光秀が最も信頼する重臣として、各地を転戦するなど目覚ましい活躍をした。利三の娘お福は、稲葉正成と結婚し、後に家光の乳母に抜擢された。天皇から『春日局』の称号を賜り、大奥を統率し、その権勢は老中から諸大名に及んだ。

現在、白樫地内の春日局公園に局屋敷跡の碑がある。

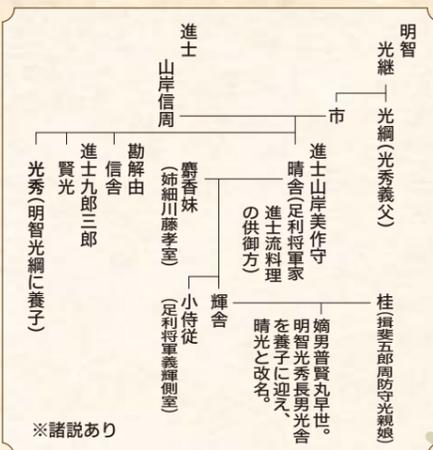
こうして見ると私たちの町揖斐川町はまさしく土岐一族や明智光秀ゆかりの地として、数多くの史実や史跡に恵まれ住民の誇りとする町である。



春日局(東京都 麟祥院蔵)



明智光秀公肖像画(岸和田市 本徳寺蔵)
画像提供・岸和田市役所 観光課



※諸説あり



揖斐川町観光協会

揖斐川歴史民俗資料館

〒501-0603 岐阜県揖斐郡揖斐川町上南方901-5
TEL.0585-22-5373 FAX.0585-22-4922
kankoubunka@town.ibigawa.gifu.jp

お問い合わせ

明智光秀 ゆかりの 揖斐川町

清和源氏土岐氏随一の支流

明智光秀ゆかりの史跡



1 斎藤一族の墓
小島山の麓に白樫城主三代の利安、利賢、利三ら斎藤一族の墓がある。



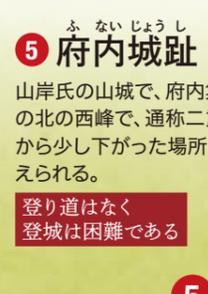
2 白樫城趾
斎藤利安が小島山の通称城山山頂に築いた山城である。明智光秀重臣斎藤利三の居城でもある。
山道は崩れ登城は困難である



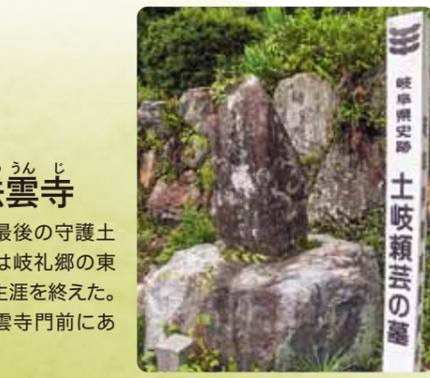
3 千代河戸 逸話
明智光秀がこの地の千草姫と恋仲になり、別離の時詠んだ歌に由来する場所と伝えられる。



4 重ね岩 逸話
明智光秀が平安時代に由来する重ね岩を、怪力の若者が動かしたのをたしなめたと伝えられる。



5 府内城趾
山岸氏の山城で、府内集落の北の西峰で、通称二重洞から少し下がった場所と伝えられる。
登り道はなく登城は困難である



6 法雲寺
美濃国最後の守護土岐頼芸は岐礼郷の東春庵で生涯を終えた。墓が法雲寺門前にある。



16 小島城趾
美濃国守護土岐頼康が春日六合に築いた山城である。大規模で多くの遺構が残されている。明智氏元祖、明智頼兼生誕の地でもある。



10 大興寺
大興寺は揖斐氏元祖、揖斐頼雄が土岐揖斐氏の菩提寺として建立した。この寺の裏に頼雄の墓がある。



8 山岸氏の居宅
山岸氏は現在の桂地区の通称牛ヶ尾という山麓辺りに、居宅を構えていたと思われる。



15 瑞巖寺
瑞巖寺は、土岐頼康が父頼清の菩提を弔うため建立した。本堂の西300mの場所に頼清・頼康父子の墓や、境内には後光厳天皇小島頓宮の碑がある。



14 春日局 出生地
斎藤利三の娘お福(後の春日局)出生の地と伝えられる場所で、現在春日局公園になっている。



13 月桂院
月桂院本堂西南の地には、土岐、斎藤、織田、豊臣の家臣として活躍した稲葉一鉄の墓がある。



11 清水古城趾
この城は、土岐氏に仕えた加賀国出身の林七郎左衛門道兼が清水山頂上に築城した。その後、稲葉一鉄に滅ぼされた。



9 揖斐城趾
土岐揖斐氏の元祖、揖斐出羽守頼雄が城台山に築城した。以後、約二百年間揖斐氏の居城となった。



12 清水城趾
稲葉一鉄が築城した。現在清水小学校校地となっており、東側に当時の石積みが残っている。

史跡には私有地や駐車場のない場所もあります。事前に問い合わせ先までお尋ねください。